

昭和村の概要

標高400から800mの中山間地域に10の集落が点在し、冬期間の降雪が多く最高積雪は2メートル以上となる。

住民が主役の地域コミュニティづくりの支援を行い、高齢者が自分たちの地域を考えて、「支え合い活動」や「生きがい活動」が地域に普及・拡大することで、介護予防や生活支援サービスの充実を目指した。

【基本情報】

●人口

1,347人

●65歳以上高齢者人口

741人

●高齢化率

55.01%

●要介護認定率

21.05%

●第1号保険料月額

5,900円



取組の内容①

住み慣れた地域で暮らし続けるためのお宝探し

1 背景

新しい総合事業への移行準備をする中で、はじめは、訪問型・通所型サービスの受け皿をどう確保するのか、地域に不足する多様な主体による生活支援・介護予防サービスの開発・発掘及び介護予防体操の集いの場の普及などをどうするのかと、国が示しているマニュアルにこだわり、整合性に苦慮していた。（今思えば、無いものを探し、新しいサービスを創設する旅をしていた。）

あらためて、自分達の地域がどうなっているのか地域に出てみると、既に、自然に当たり前のように、様々な活動（福祉的にみれば生活支援）があり、課題探しの前に、地域を知ることから始めることが、もっとも重要と気づかされた。

2 事業内容

●実施主体（地域聞き取り調査）

昭和村保健福祉課

昭和村社会福祉協議会（生活支援コーディネーター）

NPO法人苧麻倶楽部

特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター

●調査先

村内全域（聞き取り調査対象者 145名）

●調査期間

平成27年7月16日～

●財源

村一般財源

3 取組のポイント

地域資源の再発見（気づき）

例えば、地域のお店が地域福祉の拠点に！！

○個人宅ではなく商店だから毎日気軽に行ける

○店主と客、客同士が連絡を取り合って、心配な人の見守りにもつながっている



◎生活支援サービスにおきかえると・・・

- ・地域サロン(高齢者の集いの場)
- ・見守り、安否確認
- ・ひとり暮らし高齢者への配食 等



自分達では何とも思っていなかったこと、当たり前前のが、村外の外部組織（CLC）と共に地域を周り、住民と話すと「この活動は素晴らしい、これは支え合い活動だ」と第三者から言われることで気付かされた。

取組の内容②

地域支え合い活動の拡大 (住民が主役の地域づくりに向けて)

9月 2日	改正介護保険と地域づくり研修会 ・改正介護保険における生活支援コーディネーターと協議体 ・改正介護保険と地域づくり
11月12日	集落における地域支え合い研修会 講師：下矢部西部地区社会福祉協議会（熊本県山都町）
11月14日～ 15日	CLC主催の支え合い活動や生きがい活動、生活支援サービス事業の立上支援講座に参加 ※協議体設置を視野に入れ、専門職と意欲のある地域住民の7名で地域課題の見つけ方から課題解決のためのさまざまな実践を学んできた。
12月 9日	住民向けの支え合い活動の講座 「できることから始めよう！」
3月 下旬	介護予防手帳活用講座（仮称） ・子どもでもイメージできる文章で若い年齢層に今から心構えを伝える ・当たり前の日常生活がすばらしく介護予防にも繋がっていることを伝える。

成果と課題

取組の成果

●関係機関の気づきと意識の変化

地域での日常の交流は、支え合い活動の基盤となっており、隣近所とのあいさつやお茶のみは、ゆるやかな見守りにつながっていますし、立ち話や趣味のサークルは情報交換の場となっています。あまりにも当たり前前の営みで、誰もこの大切さに気づいていない場合が多かった。

このような個々の地域の営みを見つけて、繋いでいくことと切らさないことが、結果的に支え合いのネットワークになり、生活を支援する体制になることに、気づかされた。

●住民自身の気づきと自信

地区活動についてのインタビューを受けたり、様々な場面で自分の活動を報告したり、村外(他県)の活動を聞くことで、自分たちの活動が、認められ自信を持ち、地域づくりは人づくりなので、若者にも自ら声かけし共に活動していくことの大切さを、知るなど、自ら住民が活動していこうとする意気込みを感じるようになっていく。

課題

●支え合い活動の広がりはこれから

人と人とのつながりや見守りなど、地域住民によるさまざまな支え合いの活動が、維持・継続できるような後押し「地域支援」と、専門職による「個別支援」が、まだまだ機能していない。



今後について

今後の展望

●生活支援コーディネーターの増員

1名体制では相談相手がないため、孤立してしまう場合や責任の背負い込みが考えられるので、平成28年度からは、3名体制（NPO芋麻倶楽部とCLCを追加）とする予定。

●自律支援の地域づくり

「地域支援」と「個別支援」について、本人のニーズに添った支援のあり方を、過剰な支援がかえって本人の力を奪ってしまうことがないように、住民も関係者も気づきあえる場づくりをしていきたい。

●豪雪地域の近所づきあい

高齢者にとって、友人やご近所とのつき合いは、降雪によって大きな影響を受ける。日常的な活動に支障がでる冬期間の暮らしぶりを調査しながら、本人が役割をもって、多様なつながりを維持できるように、活動していきたい。



日常のお茶のみ



見守りを兼ねた新聞受け